# 優秀賞

設計担当者
本井和彦 | (株)竹中工務店、北海道建築士会

事務所／北海道札幌市中央区

## 北海道地区FMセンター

| | |
|---|---|
| 構造 | 木造 |
| 階数 | 地上2階 |
| 敷地面積 | 1,897.41㎡ |
| 建築面積 | 480.45㎡ |
| 延べ面積 | 856.46㎡ |
| 竣工年 | 令和3年 |

1

1 外観(昼景、冬季)　2 オフィス。微気候空間に覆われた温熱入れ子構成の中心部

## 選評

北海道でも夏は暑い! 訪れた日も東京並みの暑さだった。冬の寒さを考慮すると当地の温熱環境の条件は日本の中では極端に厳しい。敷地は札幌市街地の南部、藻岩山の近傍にある。かつてここに在った屯田兵村の区画割が現在もこの街の骨格になっているとか。

この建物は建設会社の、メンテナンスやリノベーションを行う部門の拠点事務所である。

道路から見ると外壁は全面、高断熱のポリカーボネイト中空板に覆われて、内部の木造の構造がぼんやりと見える、不思議な建物である。現在まで道内では利用が少なかった北海道産木材を積極的に活用して道内で在来軸組工法による非住宅建築の普及を図るために、そのプロトタイプ創りに取り組んだ作者は、同時に亜寒帯といわれる厳しい冬の気候に対しても省エネルギーに繋がる新しい室内環境づくりにも挑戦したのである。自社ビルでのフロンティア・プロジェクトであった。

道産材を道内で加工し道内の現場で組み立てるという地域循環のモノ創り。特にカラマツやトドマツは現在十分に成長しており、それら木材の道内での利用が待たれているという。ここでは120角の一般流通材(カラマツ集成材)をダブルに組み合わせることで、事務所建築として適切なスパンを実現できることになっただけではなく、軽快で美しいインテリアを構成する大きな要素となった。

平面を見ると中心部にオフィス空間があり、それを囲むように中間領域としての「縁側空間」が置かれている。この「縁側」は自然のエネルギーを可能な限り利用する「微気候空間」としてつくられている。それに包まれた最も重要な執務空間の温熱環境は、したがって極めて安定したものになるという設計である。本来、廊下やロビーなど条件の違う空間を内包する全館を同一の温熱環境にすることにはかなりの無駄があるが、ここでは場の使い方に応じた、わかりやすい合理的な環境設計に仕立て上げた。この縁側空間で説明を聞いていた時、とても心地よい微風を感じたのだが、空調が動いているのではなく窓が解放されて外気が引き込まれた結果だと知り、改めて縁側の意味を感じることができた。

アップサイクルやダウンサイクルでもさまざまな試みが見られる。床に使用したCLTの端材を階段の段板に使ったり、薪やチップにしかならない林業のゴミを敢えて集めて、家具の材料にしたり、使われない丸太をベンチに加工するなど多くの工夫が見られる。

通常の企業の事業ではありえそうもない、自社ビルならではの、実現できそうなさまざまな挑戦を見せてくれたさわやかな作品である。

(可児才介)

2

3

4

1階平面図

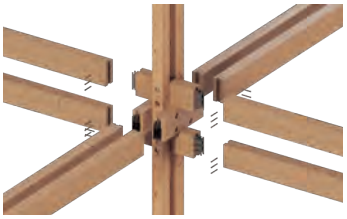
2階平面図

3 共創スペース。ダブルティンバーにより4.55mのスパンを実現
4 CLT階段。2F床CLTの端材を流用
5 トドマツベンチ／3Dスキャン+デジファブモデル+職人技術
6 ミズナラテーブル／金属左官

写真…Ikuya Sasaki

5

6



Double Timber MODEL